

夏の王様カブトムシの標本をつくろう大作戦！ イベントレポート

おおさか環境ネットワークが主催で夏休みの自由研究がテーマのイベントが、大阪産業創造館の6階会議室で8月5日(月)に開催され、弊社も出展しました。

「おおさか環境ネットワーク」とは、「持続可能な未来を子どもたちへ」という理念のもと、さまざまな環境活動を行う団体が集まり交流しています。環境事業協会はそのネットワークの連携団体です。

お陰様で弊社のイベントへの参加申込者は募集開始から一晩で定員を超えるお申込があり、枠を5組拡大しての募集でした。

イベント当日は1組だけ欠席がありましたが、小学生のお子さんが25名に保護者の方が23名、合計48名でのご参加がありました。



以下はイベントが始まる前の受付の様子です。

「参加者は先着順でカブクワの缶バッジが貰える！」との設定をし、下の写真のように講師が撮影した数百種類のカブクワの写真の中から厳選した「26種類の写真を使った缶バッジ」を用意しました。その影響か皆さん遅刻も少なく受付開始前からたくさんの人にお越し頂きました。



受付開始です。開場前からたくさんの参加者の方にご来場頂いていたので、お席の確保だけ先にお願ひし、受付開始と共に来場順にお並びいただきました。

そして、特典であり先着順に種類が選べる缶バッジの配布と共に標本作成キットをお渡ししました。



その後、弊社が用意した標本用のカブトムシを皆さんにそれぞれ 1 個体ずつ選んでもらいました。

赤い個体、大きな個体、同じカブトムシでも個体差があり個性豊かなことから、選ぶのに迷っているお子さんも居ました。



選ばれた個体は紙コップの中に入れて、自分の名前を書いたフセンを貼り付けて机に設置しておきます。

これには、受付終了後にスタッフがお湯を注ぎます。

皆さんに配布の標本用カブトムシは、昨年度採集して死亡した個体を冷凍庫で保管していたため、水分が失われて乾燥して固まっているのを柔らかくするための処置です。

何故冷凍庫で保管するかというと、第 1 に雑菌による分解を止める為です。

飼育容器内で土にうつぶせになった状態から早く隔離しないと、関節から分解が進みバラバラになってしまいます。

また、完全に乾いてしまったものをお湯に戻すよりは、冷凍しておいたものをお湯に戻す方が作業効率がいいからです。



そのほか、今回、会場内で何と言っても注目なのは 20 種類もの実物の生体を使った展示でしょう。168 mmもあるヘラクレスオオカブトは子どもたちに大人気間違いなしです。



左下の写真はヘラクレスオオカブト 2 種類、右下の写真はアトラスオオカブト(左)にエレファスゾウカブトの仲間(右)です。どれも日本のカブトムシとは全く違った容姿やサイズをしています。



左の写真はクワガタムシの数々です。

112 mmもあるパラワンオオヒラタを筆頭に巨大な個体がたくさん並んでいます。

と、、、受付を済ませた参加者が大勢、実物展示の方に集まっています。
講師は受付後に選んでもらう標本用カブトムシの対応に追われていたので、前半はこのエリアではクワガタムシなどに挟まれないように！の注意喚起だけでしたスミマセン。



中央のクヌギの台木は、この日の為に自然環境を保全しておられるボランティアさんに作っていただいたもの。面取りなども施され、完成度の高さに頭が上がらないです。





たくさん並ぶ飼育ケースに、子どもたちは大はしゃぎ。

外国のカブトムシの首に挟まれて少し怪我をした子もいましたが、再度触りに行くなど大盛況でした。

ここでは、外国の大きなミヤマクワガタと日本のミヤマクワガタ、ヘラクレスオオカブトと日本のカブトムシを並べたりしながら、オオクチバスやブルーギル、メダカといった魚を話題に挙げて、「日本の生きものを脅かす原因になるので外国から来た生きものは最後まで責任をもって飼育しましょう」というアナウンスをしました。皆さん真剣に聞き入ってくれていました。

下の写真の缶バッジは受付のものが無くなり入れ替えたもの。予備バッジはこれから始まる講演の中でクイズに手をあげてくれて回答してくれた人に渡すために準備しました☆

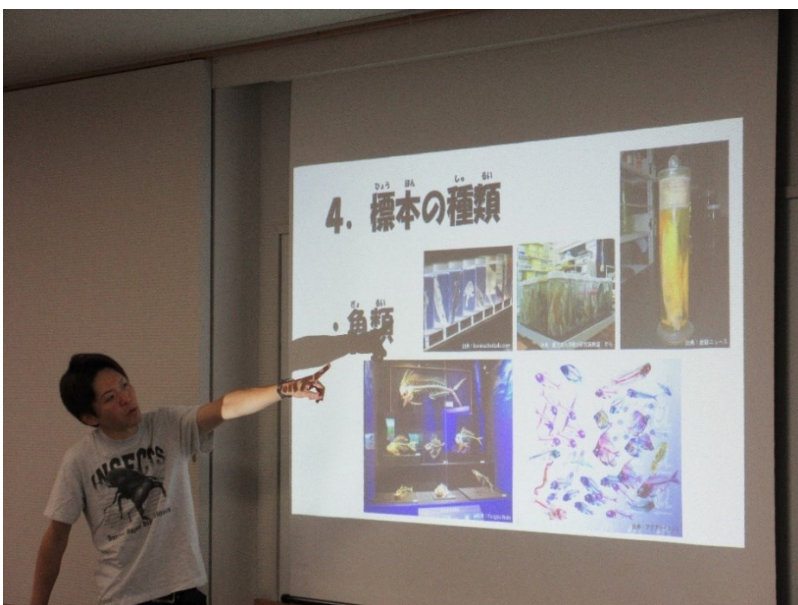




今日のお話の流れの説明です。皆さんスクリーンに注目してくれていて感動でした。

小学生対象のイベントは、なかなか全員がお話を聞いてくれないことが多いのですが、最初の掴み（実物とのふれあい）が良かったことによる結果だと考察しています。

「講師はどのような生き立ちで虫にはまっていったのか」、「今までどれくらいの数を飼育してきたのか」、「自宅のブリードルームはこうなっている」など、自己紹介からお話していきました。



弊社職員でこのイベントの講師の岡本晋弥です。

色々な種類の生きものがあるが、その種類に応じて標本には様々な作り方があるというお話をしている様子です。

その中で、「甲虫の標本は他の生きものの標本に比べて作るのが簡単」、「保管に掛かる手間が少ない」など、ご紹介しました。



お話の途中にはクイズを何問か入れており、挙手してくれて「当てられて何か発言した人に缶バッヂをプレゼント！」というようにしていましたが、たくさんの方が一斉に挙手してくれるので、なかなか1番最初に手を挙げた人が分かりにくかったですごめんなさい。

さて、早速標本づくりをスタートした様子です。

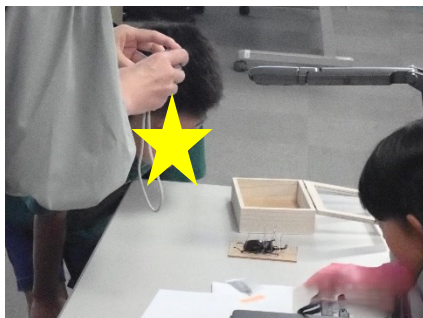
書画スキャナーをプロジェクターに投影して手元を映しながらご説明しました。

どうもカブトムシの色に機械が反応して自動で補正してしまい、それが逆に見にくかったりしたようで申し訳なかったです。

次回開催の折にはその点改善しようと思います。



たくさんの人に「これでできますかー?」と呼ばれて、あっちにこっちに確認作業で大忙しでした。



左の写真は自分のやり方を確認すべく、書画スキャナー横に集まってきている子どもたちの様子。
熱心に訪ねてくれてありがとうございました。

下の写真は出来あがった標本を手に集まってきた子どもたちの様子。



最後に全員で記念撮影☆

保護者の方々も、我が子の写真を撮ろうとカメラ側で沢山スマホなどを構えられていました。きちんと学んでもらえていい思い出になったかな～?



○お子様向けのアンケートでは、以下のように高い評価をたくさんいただきました。

・イベントを受けていきものを大切にしようと思いましたか？との問いには、殆どの人が「大切にしたい」と回答。

・今回のような行事があったときにまた参加したいですか？との問いには、全員が「参加したい」と回答。

○保護者向けのアンケートでも、以下のように高い評価をたくさんいただきました。

・色々なカブトムシとクワガタを触らせてもらえたのが最高でした。

・親では教えることができないので

・標本づくりが楽しかったです！

・詳しく教えてくれて初めてのことが体験できて楽しかった

・本格的な標本作りでよかった

・色々な種類のカブトに触れ長い時間かけて虫の事を考えたりできたこと。

・普段体験できないことができたから

・たくさんのカブトムシも展示していただいて、大変貴重な体験をありがとうございました。

・丁寧に指導していただいた。

・カブトムシが好きな息子がイキイキしていました。色々な種類のカブトムシやクワガタムシを触らせてもらえてよかった。

以上のような回答が多数寄せられ、普段経験できないことを体験できて学ぶことのできたイベント講座となりました。自由研究、がんばって提出してくださいね☆